

「安心感をもち、意欲的に学んでいる子ども」を育てるために

園から小学校へ、学びの接続期プログラム

えがおわくわく



佐賀市・佐賀市教育委員会

表紙絵・イラスト

学校法人 旭学園 佐賀女子短期大学
子ども未来学科 准教授 大江 登美子 氏



「安心感を持ち、意欲的に学んでいる子ども」を育てるために

園から小学校へ、学びの接続期プログラム

えがおわくわく



佐賀市・佐賀市教育委員会

はじめに



本市では、総合的かつ計画的なまちづくりを進めていくための指針として、平成27年度に第2次佐賀市総合計画を策定し、目指す将来像に「豊かな自然とこどもの笑顔が輝くまち さが」を掲げています。

この将来像は、本市の特長である「豊かな自然」と、次世代を担う「こども」たちが生き生きとして輝き、子どもを取り巻く大人を含め、市民みんなの笑顔がまちに広がっていくことを表しており、さらには、まちの魅力を高めることによって、多くの人が集まる賑わいのあるまちを創っていくという思いが込められております。

未来を担う子どもたちは、社会の宝です。本市では、この将来像の実現に向け、総合計画の施策の一つに「就学前からの教育の充実」を掲げ、子どもたちが健やかに育ち、心豊かで、確かな学力とたくましく生きる力を身に付けられるよう、家庭・地域・企業等・学校等が互いに連携・協力し、地域に根差した子どもの育成について、様々な取組みを行っております。

その取組みの一つである接続期プログラム「えがおわくわく」につきましては、保育所（園）・認定こども園・幼稚園等から小学校へ、子どものより滑らかな就学に資することを目的として作成しております。

このたび、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、小・中・高等学校の各学習指導要領の改訂に伴う内容の見直しを行い、第8版を発行することとなりました。各園・小学校の先生方をはじめ、接続期の子どもの教育に関わる皆さまに是非ご活用いただきたいと考えております。

結びに、ご指導いただきました福岡女学院大学・大学院の坂田和子教授をはじめ、ご執筆・ご助言いただきました作成委員並びに園・小学校関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

令和2年3月

佐賀市長 秀島 敏行

「えがおわくわく」改訂にあたって



平成から令和の教育へ。平成29年3月、これからの時代に求められる教育の実現に向けて、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、小・中・高等学校の各学習指導要領が告示されました。私たちの予想をはるかに超えたスピードで進展する10年先の社会を見据え、学校教育の役割・方向性が示されています。

今回の学習指導要領等の改訂においては、「生きる力」が資質・能力の三つの柱で整理され、保育所（園）・認定こども園・幼稚園と小学校、さらに中学校、高等学校までを縦のつながりで見通していくことができるようになりました。

本市では、次世代を担う子どもたちが生き生きと輝くことができるように、平成17年度から保育所（園）・認定こども園・幼稚園と小学校との接続期における育ちや学びの連続性を確保するための接続期プログラム「えがおわくわく」を作成し、就学前からの教育の充実を図ってまいりました。

このたび、学習指導要領等の改訂に合わせて、『接続期プログラム「えがおわくわく」』を改訂・発行することとなりました。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、児童が自己を発揮しながら主体的に学びに向かい、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を更に伸ばしていくことができるよう、内容を大きく見直しています。

各保育所（園）・認定こども園・幼稚園と各小学校の子どもの実態に合わせながら活用いただき、佐賀市の接続期教育で育てたい子ども像である「安心感をもち、意欲的に学んでいる子ども」を育てまいりたいと考えています。

最後になりましたが、ご指導いただきました福岡女学院大学・大学院の坂田和子教授、執筆や編集、情報提供などに協力いただきました、保育所（園）・認定こども園・幼稚園、市立小学校の皆様にご心から感謝申し上げます。

令和2年3月

佐賀市教育委員会教育長 東島 正明

「えがおわくわく」第8版刊行によせて

福岡女学院大学・大学院

坂田 和子 教授



何かをしたくなる・・・そのような心もち

安心・安全を保障し、夢中・没頭する子どもの教育を支える先生方は何と尊いことでしょう

「えがおわくわく」第8版の刊行を心からお慶び申し上げます。佐賀市は就学前から義務教育への滑らかな接続とゆるやかな段差について、全国に先駆けて2004(平成16)年に幼保小連携の取組みを始めています。多くの自治体が、福祉と教育という縦割り行政で就学前教育と小学校教育を検討する中、佐賀市は子どもに関わる福祉と教育行政の一部を同じ課に集約し、子どもを中心に福祉と教育とが一体となって幼保小連携を推進、組織改変後の現在も変わることなく連携を一体となって進めていらっしゃいます。

今回佐賀市と佐賀市教育委員会が共同で刊行した第8版の特徴は、子どもの教育が未来を生きる子どもたちにとってどうであるかを丁寧に解説しているところです。時代が平成から令和へと移り変わり、そして経済協力開発機構(OECD)は、『教育とスキルの未来: Education 2030』で共有しているビジョンにおいて、「VUCA」(Volatility: 不安定、Uncertainty: 不確実、Complexity: 複雑、Ambiguity: 曖昧)が急速に進展する世界に直面することを述べ、その中で環境、経済、社会に関する様々な課題に向けた解決策の検討と持続可能性の確保、個人・集団のウェルビーイングの追求、学ぶ者のAgency(エージェンシー)について言及しています。Agencyとは、日本で対訳がありませんが、文部科学省は「自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく姿勢・意欲」と説明しています。平成29年3月に同時改訂(定)された就学前から高等学校までの要領等を踏まえ、各自治体が0歳から18歳までの学びをどのように教育振興基本計画に位置づけ、教育を充実・発展していくかが鍵となります。

佐賀市の接続期教育で育てたい子ども像は『安心感をもち、意欲的に学んでいる子ども』です。子どもの権利条約に批准している日本は、2016(平成28)年児童福祉法の一部改正において、子どもの意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮されることを明記しました。学ぶ主体である子どもの学ぶ姿をどのように見取り支えるか、子ども・児童理解が問われます。

写真1は、子どもたちが動物園で働いていた飼育員さんの姿に憧れを持ち、園での遊びを展開している様子です。写真右の女児がきりんの口元に餌を差し出している一方、写真左の男児はきりんのおしり側から出てくる糞をほうきで集めちりとりに入れています。その集め方は回数を重ねるごとに洗練されていき、糞が落ちてくるタイミングを見て集める動きは、タイミングを待つ緊張とすばやく多様な動きの連続で、見ている側にその真剣さが伝わってきました。そしてその糞は、きりんのお腹



写真1 動物園へ行った後に展開された「どうぶつえんごっこ」



写真2 動物のえさづくり

の下にもぐっている子どもがペットボトルで作った入れ物に糞を入れて落とす仕組みになっていました。

写真2は動物のえさづくりをしている女兒の様子です。平テープを束ねおもちゃの包丁でえさに見立てて何度も切っていました。切る度にザク、ザックという音がし、十分な手応え感覚を得ながら遊びに没頭していました。このように、一人一人がそれぞれに遊び込みながら思考し続け、夢中になって没頭し探究し続ける姿から見取れることは、幼児期の発達と子どもの〇〇したいという心もち(心情)を大切に先生方の子ども理解があって子どもの主体的な学びが立ち現れるということです。そして、幼児期の発達を踏まえた就学前のキャリア教育(経験したことや考えたことを自分なりに表現するなど)として、カリキュラムにデザインし、子どもの姿から絶えず先生方が実践を評価・省察し続けマネジメントしていることがこの無自覚的な学びを支えています。

また写真3は、小学校の校長先生から見せてもらった手作りトロフィーです。校長先生は自ら児童一人一人のよさを見取り、そのよさを言葉にしてトロフィーを手渡すそうです。春休み期間中、校長先生は全校児童分のペットボトルトロフィーを作り、校庭に並べ、スプレーをまんべんなくかけて乾かし新年度に備えているとおっしゃっていました。その姿に思いを馳せた時、心「で」育てようとする教育のあたたかさを感じました。このような先生方に見守られ、安心感を持ち、学びゆく佐賀市の子どもたちは何と幸せなことでしょう。



写真3 一人一人のよさに対して渡される校長先生手作りトロフィー

最後になりましたが、本冊子の作成にあたり全面的なサポートをいただきました秀島敏行市長様、東島正明教育長様をはじめ、何度も話し合い対話し時間を重ねて学び合いをされた作成委員の先生方、えがおわくわくな子どもたちのイラストを表紙に描いていただいた大江登美子先生、わたくしのイラストを描いてくださった堤妙子さん、そして冊子の完成に向けて熱心に進めていただきました古賀陽子指導主事、松本佳子指導主事、西原宏一指導主事、川副清隆副課長に心より感謝と敬意を表します。

目 次

はじめに

佐賀市長	秀島 敏行	2
------	-------	---

「えがおわくわく」改訂にあたって

佐賀市教育委員会教育長	東島 正明	3
-------------	-------	---

「えがおわくわく」第8版刊行によせて

福岡女学院大学・大学院	坂田 和子 教授	4
-------------	----------	---

第1章 2030年を見据えた教育

1	新しい時代に求められるもの	10
2	0歳から18歳までを貫く「資質・能力」	
	(1) 0歳から18歳までつながる保育・教育	11
	(2) 就学前の保育・教育で育成を目指す「資質・能力」	12
	(3) 小学校教育で育成を目指す「資質・能力」	13
	(4) 資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」	14
3	佐賀市の接続期教育と接続期プログラム「えがおわくわく」	
	(1) 佐賀市の接続期教育で育てたい子ども像	15
	(2) 接続期プログラム「えがおわくわく」	16

第2章 育ちや学びのつながりを意識した実践 ～えがおわくわく期のカリキュラム～

1	年長アプローチカリキュラム期	
	(1) アプローチカリキュラムとは	18
	(2) アプローチカリキュラムの効果	18
	(3) アプローチカリキュラム作成・実施のポイント	18
	(4) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)	19
	◇ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)と小学校へのつながり	20
	(5) 資質・能力を育む「学びの過程」を意識した実践	22
	(6) 年長アプローチカリキュラム期の実践例	24
	◇ 実践例を読むにあたって	24
	◇ 実践例①：「すごいぞ!何でもできるぞ!ダンボール」	28
	学びの育ちを確認するために～実践例①を通して見られた子どもの姿を 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連で可視化すると～	32
	◇ 実践例②：「友達と一緒にだから、やってみたい!」	34
	◇ 実践例③：「明日はもっと怖くしよう」	38

2 小1スタートカリキュラム期

(1) スタートカリキュラムとは	44
(2) スタートカリキュラムの効果	45
(3) スタートカリキュラムの編成・実施のポイント	45
(4) スタートカリキュラムの計画	46
(5) スタートカリキュラムの実践	52
(6) 小1スタートカリキュラム期の実践例	53
◇ 実践例を読むにあたって	54
◇ 実践例①：生活科「夏がやってきた～砂場でみんなと楽しい遊びを創り出そう!～」	58
(単元計画・展開案)	62
◇ 実践例②：国語科「場面の様子や登場人物の行動を想像して、音読発表会をしよう」	66
(単元計画・展開案)	70
◇ 実践例③：特別活動「みんなあそびをしよう」	74
(活動の流れ・展開案)	78
◇ 学習評価	81

第3章 交流を通じた相互理解

1 園と小学校の交流

(1) 保育者と教師の交流	84
(2) 園児と児童の交流	85

2 育ちや学びをつなぐ要録の活用

(1) 内容を理解するポイント	86
(2) 小学校で活用するポイント	87

参考資料

資料1 児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)	90
資料2 児童福祉法(抄)	91
資料3 幼保小連携・接続関連項目(保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領より抜粋)	92
●参考文献	93
●えがおわくわく第8版 作成委員	94